

**製品名: Dok-5 ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab10109**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	36kDa

## 抗原情報

遺伝子名	DOK5
別名	DOK5; C20orf180; Docking protein 5; Downstream of tyrosine kinase 5; Insulin receptor substrate 6; IRS-6; IRS6
遺伝子 ID	55816.0
SwissProt ID	Q9P104
免疫原	抗血清はヒト DOK5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

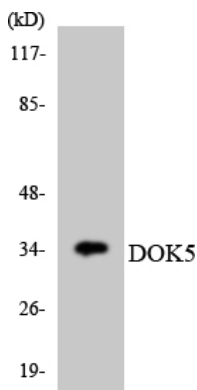
## 背景

ドッキングタンパク質 5 (DOK5) ホモサピエンスこの遺伝子によってコードされるタンパク質は、シグナル伝達に関するアダプ

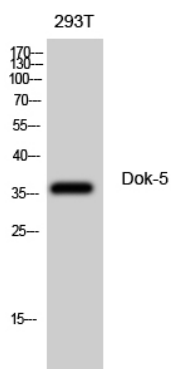
タータンパク質である膜タンパク質の DOK ファミリーのメンバーです。コードされるタンパク質は、リン酸化受容体チロシンキナーゼと相互作用して、神経突起伸展および MAP キナーゼ経路の活性化を媒介します。他の DOK ファミリータンパク質とは異なり、このタンパク質は RASGAP と相互作用しません。このタンパク質は、全身性硬化症患者でアップレギュレーションされており、インスリン様成長因子結合タンパク質 5 によって誘発される線維化に関連しています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2014 年 6 月]、ドメイン：PTB ドメインは受容体相互作用を媒介します。機能：DOK タンパク質は、酵素的に不活性化アダプターまたは足場タンパク質です。これらは、多分子シグナル伝達複合体の組み立てのためのドッキングプラットフォームを提供します。DOK5 は RET を介した神経突起伸展に機能し、MAP キナーゼ経路の活性化に重要な役割を果たす。神経分化における RET の下流エフェクターとの関連が推定される。PTM：インスリン、IGF1、GDNF に応答してチロシン残基がリン酸化される。類似性：DOK ファミリーに属する。タイプ B サブファミリー。類似性：IRS 型 PTB ドメインを 1 つ含む。類似性：PH ドメインを 1 つ含む。サブユニット：リン酸化 RET と相互作用する。他の DOK タンパク質とは異なり、RASGAP とは相互作用しない。組織特異性：骨格筋で最も高く発現し、脳、心臓、腎臓では低い。活性化末梢血 T リンパ球でも検出される。

## 研究分野

## 画像データ



DOK5 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



Dok-5 ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた 293T 細胞のウエスタンブロット解析